

INMP ニューズレター第 15 号

2016 年 6 月



第 9 回国際平和博物館会議は 2017 年 4 月 ベルファスト（北アイルランド）で開催

ニューズレターの前号でお知らせしたように、第 9 回 INMP 会議は 2017 年 4 月 10 日から 13 日北アイルランドのベルファストで開催される。このダイナミックで革新的な町は紛争解決とその劇的変化の過程にある「生きた博物館の都市」と言われている。本会議のテーマである「生きた平和博物館としての都市」は分断され混乱したベルファストが紛争後の癒しと和解を通して平和意識のモデルとなる町へ変わっていく社会的政治的变化にハイライトをあてている。今回の会議はビジットベルファストとアルスター大学の共催となる。ビジットベルファストはベルファスト市議会、北アイルランド観光局などの団体の財政的支援を受けた第三セクターである。アルスター大学社会科学研究所には過去 遺産、記憶、記念物、そして平和と和解に関する問題を研究する多くの学者がいる。草の根運動も含むいくつかの地元組織が地元運営委員会の代表である。



ベルファストのストーモント国会議事堂

開会式はストーモントの北アイルランド政府の国会議事堂で行われる予定である。この日（4/10）は歴史的な聖金曜日/ベルファスト合意がこの地で署名された 19 回目の記念日である。また、会議のプレゼンテーション、分科会はアルスター大学、ベルファストキャンパスで行われる。会議前にはガイド付きオプション市内観光ツアーが、会議後にはフィールドワークが計画されている。このフィールドワークにはヒーリング・スルー・リメンバリング Healing Through Remembering（想起を通しての癒し）、北アイルランドの最も古い平和と和解の組織であるコリメーラ Corrymeela などの平和団体や、北アイルランド問題の歴史について物議をかもした写真展を持つアルスター博物館が含まれる可能性がある。



タイタニックベルファスト

会議主催者や地元運営委員会はこの会議の成功のために熱心に関わってきている。ベルファストは国際会議開催に適した地として世界でトップテンの一つの入る町であり、平和と紛争解決の会議の誘致を強く望んでいる。ベルファストで一番の観光地は壮大なタイタニックベルファスト博物館で、世界最大のタイタニック号展はこの町の海事遺産の記念碑である。タイタニック号の悲劇の処女航海から100年の2012年にタイタニック号が造られた有名な造船所にオープンした。

会議の論文、パネルディスカッション、ポスターの発表の募集要項はINMPのウェブサイトに掲示されている。申し込みは museumsforpeace.org に提出ください。今までの会議同様、プログラムの目的は開催地から着想されたテーマとINMPのメンバーが関心あるテーマとのバランスを取ったものとなる。INMPの設立25周年記念でもある本会議が示唆に富み、思い出に残る会議となることを期待している。

アメリカ大統領バラク・オバマ氏の 広島平和記念公園訪問

平和公園や平和博物館が世界中のトップニュースになることはよくあることではない。もちろん広島平和記念公園は単なる平和公園ではないし、アメリカ大統領であるオバマ氏は単なる訪問者ではない。5月27日の彼の広島平和記念公園と平和記念資料館訪問は全体でわずか二時間足らずのものだったが、それは世界中で報道され、論評された。

慰霊碑での式典においてオバマ大統領は安倍晋三首相とともに献花し、スピーチを行った。また彼は二人の被爆者と会い、抱き合った。ひとり



オバマ大統領と安倍首相

91歳の広島県原水爆被害者団体協議会理事長の坪井直氏。そしてもう一人は79歳の森重昭氏である。森氏は数十年を費やして、広島上空で撃墜され、拘留中に被爆したアメリカ人航空兵の運命を調査し、さらに彼らの家族を探し出した。また彼は1945年8月6日に亡くなった12人の米兵捕虜を見つけだし、広島に彼らの慰霊碑を設立する運動の先頭にたった。

オバマ大統領は短時間の平和記念資料館訪問後、芳名録に「私たちは戦争の激しい苦しみを体験してきた。ともに平和を広め核なき世界を追求する勇気をもとう。」と記帳した。この訪問は前月の米国国務長官による初めての訪問となったジョン・ケリー氏の場合とはかなり違っていった。ケリー氏は志賀賢治資料館館長の案内による50分の見学の間、展示や遺品に深く心を動かされ「私個人としては決してわすれられないもの」を見た」とコメントし世界のリーダーたち全てに広島訪問を促した。



オバマ大統領と被爆者の森重昭氏

2016年のこれらの広島訪問はジョン・ルース駐日アメリカ合衆国大使(2009年, 2010年)とその後任であるのキャロライン・ケネディ駐日大使(2014年, 2015年)の公式、非公式な訪問によっていくつかの点でまえもって準備されていた。ジミー・カーター氏は大統領退任後暫くたって1984年に広島を訪問、一方リチャード・ニクソン氏は大統領就任数年前の1964年に訪問している。しかし、在任中のアメリカ大統領の広島訪問は今までなかった。

テヘラン平和ミュージアム(TPM)

2014年にテヘラン平和ミュージアムは、1980～1988年のイラン・イラク化学兵器戦争の生存者の口述資料を残すプロジェクトを始めた。12の話はウェブサイトで見ることができる。[website](#) ハラブジャ(Halabja) 毒ガス攻撃から28年になる3月16日、フォトジャーナリストとして最初に前線に赴いたとされ、戦争通信員でもある Saeid Sadeghi さんの口述が新たに公表された。彼の悲惨な報告と写真はウェブサイトで見ることができる。



2016年3月9日「地球の平和」展

現在 TPM が中心になって行なっている別のプロジェクトは平和首長会議で、このミュージアムがイランの拠点となっている。今は800人を超えるイランの首長たちが参加しているが、2014～2015

年に700人の首長が加わったのであり、世界でもこの時期にこれほど人数が増えた国は他にない。この歴史的記録は、Mohammad Rezaei さんのリーダーシップに因るものである。彼は1984年、16歳の時に志願して前線に赴き、2年後重傷を負い片足切断という結果になり、マスタードガスも浴びたのだった。

それでも彼は戦地に戻った。そして2012年以降は平和首長会議のイラン支部の秘書をしている。エリザベス・ルイスさん(Elizabeth Lewis)が聞き取った、この勇気ある平和の使者の印象的な話「戦争から平和首長会議への旅」は、ウェブサイト [website](#) で読むことができる。

TPM の一部門である「平和のアート」は、ハデイス(Hadis) 子ども教育センターと協力して2つのイベントを催した。2月には7回目の協力プロジェクト、イランの子どもたちの絵画展「平和の方法」が開催された。

3月には、さらにブルガリア大使館も協力して、イランとブルガリアの子どもたち(6～18歳)の絵の展示会が行なわれた。



ブルガリア当局の方々が「地球の平和」展を訪問

INMP は、TPM のイベントや活動を3カ月に1度報告して下さる TPM 国際交流協会の Elaheh Pooydandeh さんに感謝している。

アメリカ平和ミュージアム (AMP)

マイケル・D. ノックス(Michael D. Knox)さんが2005年に設立したアメリカ平和記念財団(US Peace Memorial Foundation)には、なじみがあるかもしれない。その財団は、アメリカが関わってきた戦争に対して、反対の立場を示した思慮深さと勇気をもつアメリカ人や組織に、つまり国家間紛争を平和的に解決しようと、時間とエネルギーと創造性を傾注してきた人たちに、率先して敬意を払ってきたのである。

ワシントンDCには戦争や兵士に捧げる記念碑は多くあるが、平和を創り出してきた人々を覚えて称える国定記念碑はないことを実感し、彼はアメリカ平和財団を始めたのだった。平和の記録(平和活動家と戦争反対運動を記す)だけでなく、2009年以降は毎年、平和賞の授与もしている。



ノックスさんのビジョンが表された力強い9分間スピーチは、このサイト [here](#) で聴くことができる。



平和の文化を促進するには平和活動家を覚えて称えることが必要で、平和な社会を求める人々を勇気づけることにもなる。この認識を共有することが、互いに独立しているが補完し得るプロジェクト、アメリカ平和ミュージアム(AMP)を鼓舞することになった。(AMPもワシントンD.C.で組織化され、教育的なNPOとして登録されたのである)

ミュージアムはアメリカ人の平和への寄与について、またビジョンや価値観について示すことが目的である。単に戦争に反対するだけでなく、個人的、対人的、また国家や地球レベルにおいて平和を創り出す性質、姿勢、行動について強く示すことでもある。AMPはアメリカの当初からの中心的考えを包含しつつ、平和促進の普遍的原則にも関わることを促す、新しい語りを提供するだろう。



AMPの教育プログラムには、アメリカの様々な都市でのピース・ツアーや、平和活動家のビデオを発展させることなどがある。最近では、4月30日に国際ジャズ・デイを催し、「平和促進のジャズの役割を祝して」と題して、興味深いプログラムを催した。ナショナル・パーク・サービスの協力のおかげで、コンサートはトーマス・ジェファーソン記念館で行なうことができた。詳しい情報はこのサイト [website](#) で。

カナダのコミュニティ平和 ミュージアム・プロジェクト

サルタン・ソムジー (Sultan Somjee) 博士とキムバリー・ベーカー (Kimberly Baker) さんは、2 月の終わりにブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバーでの公的集会で、新しい平和ミュージアムのプロジェクトを始動させた。ソムジーさんは INMP の元委員で、ケニアのコミュニティ平和ミュージアムの創業者である。一方、ベーカーさんは紛争地に平和ミュージアムを創ることをテーマに博士論文に取り組んでいる教育者である。そのプロジェクト「涙のハイウェイ」の背景には、ブリティッシュ・コロンビア州のプリンス・ジョージからプリンス・ルパートへ至る 720km (450 マイル) のハイウェイ 16 での、若い女性が犠牲になった未解決の殺人や失踪事件がある。それらは 1969 年から 2011 年に起こり、多くの地方自治体や、ハイウェイの境界にある 23 の先住民族の女性たちが被害に遭っている。このプロジェクトは、コミュニティ内外から和解、正義、癒しなど平和構築の経験を持ち寄ることを目指している。今もなお続く女性失踪問題について、対話を生み出し、意識を高める創造的方法を探求しているのだ。具体的な提案としては、ハイウェイに沿って原産の平和の木を植えること、犠牲者の写真や所有品を地域のミュージアム、コミュニティセンター、図書館や学校で開示することがある。意識を高めること、「涙のハイウェイ」や他の地域で、悲劇が繰り返されるのを防ぐことを目的としている。詳しい情報はキムバリー・ベーカーさん [Kimberly Baker](#) へのメールや彼女のウェブサイト [website](#) で。



展覧会「こどもたち—罪なき戦争犠牲者」 オスロ・ノーベル平和センターで開催

現在シリアでは、500 万人以上のこどもたちが戦争のために家を追われ、家だけではなく、家族や友人を失くしている。その約半数が国内で難民となっている一方、約 240 万人が国外に、その多くが隣国のレバノンに避難しており、難民キャンプでの生活はそれまでの暮らしとはかけ離れたものである。

2016 年 3 月 9 日から 12 月 31 日までオスロのノーベル平和センターで開催されている展覧会「私の家はシリアだけなの」では、レバノンのベカ渓谷 (Bekaa Valley) にある難民キャンプに暮らすこどもたちが写真、短いビデオで体験を語る。



撮影 : Zakira/ユニセフ・レバノン

500 個の使い捨てカメラが用意され、こどもたち自身が 1 年以上かけて撮影。戦争で難民キャンプのテント暮らしを余儀なくされ、何を失くし、どんなめにあってきたか—いたいけな無事のこどもたちの痛切な証言だ。この企画はレバノンユニセフとレバノンの写真報道 NGO ザキラ (Zakira) の協力で実現した。

また、ノーベル平和センターでは2017年5月までユニセフのノーベル平和賞受賞50年記念を祝した展示会が同時開催中である。ユニセフは第二次世界大戦で被害を受けたヨーロッパの子どもたちを救うために1946年に国連が設立、1953年には世界中すべての子どもたちを助けることを使命として国連の常任部門となった。展示会では50年を経て公表されたユニセフの足跡に続いて、ノーベル平和賞への推挙者、他の候補者、ユニセフが選ばれた理由が初公開された。これはノーベル平和賞受賞者を特集した小規模な展示会シリーズの第4弾である。

6月9日から2017年2月28日には、同センターで「危険な賞」と題してドイツの勇氣ある平和主義者ジャーナリスト・カール・フォン・オシエツキー (Carl von Ossietzky) の展示会が開かれる。彼はドイツの再軍備について世界に警告を発したために、ナチに迫害された。



版權：ノーベル財団

その信条を貫いたために多大な犠牲を払った初期の告発者・オシエツキーは1936年に1935年のノーベル平和賞を受賞した。これは「反体制者」として受刑中の者への初めてのノーベル平和賞授与で、勇敢かつ論争を呼ぶ決定だった。

ブラッドフォード平和ミュージアム タイムリーな展示会

「平和の力？ ヨーロッパ共同の歴史」と題したあたらしい展示がブラッドフォード平和ミュージアム (イギリス) で5月5日から7月末まで開催された。最近の寄贈資料である第一次大戦を終結させた1919年のベルサイユ条約の写し、国際連合に引き継がれる国際連盟関連の資料、のちにヨーロッパ連合 (EU) となるヨーロッパ経済共同体 (EEC) のなりたちが展示された。この展示は、英国政府がEU離脱の可否を問う国民投票 (2016年6月23日) の実施を告知して以来沸き起こった論争とたまたま同時期に開催された。この展示会はまた、離脱派、残留派双方の見方を示すとともに、EUの役割とヨーロッパ大陸内外の平和への貢献について議論を促した。展示会のポスターはこちら [here](#) から。



「平和へ挑む道」ポスター展

タビストックピースアクショングループ (TPAG、ロンドン中心部) のルーパート・グーデ氏は情報、伝達力のあるポスター展「平和へ挑む道 — 第一次世界大戦後」を企画した。18枚の大型ポスターと解説、図、印象的な引用、統計、問いかけなどが展示されている。第一部では、第一次世界大戦

の始まり、新兵募集、徴兵、良心的兵役拒否、毒ガス使用、タビストック地区出身の戦没兵士の名前リストが展示され、第二部では「より平和な世界のためになにができるでしょうか？」という問いかけに始まり、国家間の協力の始まり、現在における戦争を誘発する要因と平和を創造する要因、平和への努力、変えていくために個人にできることを展示している。平和へ挑んだ人物としてエミリー・ホブハウス、シルビア・パンクハースト、ベルタ・フォン・ズットナー、バートランド・ラッセルが挙げられた。



30 数年前に設立され、平和で核兵器のない世界を求めて運動してきた一般市民の組織であるタビストックピースアクショングループ TPAG が一つのパネルで紹介されている。TPAG は英国の先進的平和団体である CND (核軍縮キャンペーン) や CAAT (武器貿易反対キャンペーン) 等と連携し活動している。



TPAG は他団体とともに会議、映画上映会、移動展覧会、路上展示、徹夜の祈り、デモ、平和、反核行動等を通して平和へのリーダーシップを発揮。詳しくは [here](#) こちらにアクセスしてください。またロンドン中心地にあるタビストックスクエア公園でのレベッカ・ウィルソンの短いビデオはこちらから。 [two-minute video](#)

インドの平和ツーリズム： マハトマ・ガンディの足跡をたどって

インドのグジャラット州にはここで生まれたインド建国の父・マハトマ・ガンディにちなんだたくさんの名所がある。現在はキルティマンディアと呼ばれるポルバンダーにあるガンディ生誕の家もその一つである。ここは博物館に改装され、ガンディの所持品、その時代と生涯にまつわる写真の展示、図書館や祈祷室等がある。もう一つの旧跡はサッティアグラハ (真理把握) ・アーシュラムで、ガンディが 1917 年にアーメダバッドに設立し、彼自身と弟子たちはここからあらゆる非暴力真理把握運動を展開、最終的に英国の統治を終わらせた。このアーシュラムの域内にサマラク・サングラハラヤ (インドの解放闘争の中心となったガンディの質素な住まい) がある。そこには非常に多数のガンディの書簡が保管されており、インド国立の史跡となっている。また、アラビア海に面した村・ダンディも記念すべき名所である。そこはガンディが 1930 年 3 月 12 日にアーメダバッドから開始した 400 km もの「塩の行進」のゴール地点として世界でも有名な場所になった。ガンディは彼の弟子たちとともに塩の専売制度に抵抗して行進した。その参加者は数千。違法に塩を集めるガンディの姿を象ったうつくしい像がこの市民の不服従行動の瞬間を記念して建っている。

これによってインドの独立運動に対して世界中の注目が集まり、何百万のインド市民がガンディの率いるこの運動への参加を触発されたのだった。



写真提供 ガンディ奉仕基金
(Gandhi Serve Foundation)

以上はグジャラート州が丁寧に管理している州内のガンディや彼の独立運動に関するミュージアム、アーシュラム、像などたくさんの記念物のうちのいくつかにすぎない。グジャラートは「マハトマ・ガンディの地」と呼びうる場所だ。最近、観光客を誘致するために、州政府は「ガンディめぐり」と題する旅のガイドブックを作成。これは20世紀最大の平和思想家、平和運動家の生涯をたどる手引きである。くわしくは [here](#) こちらへ、または Gandhi Circuit を検索ください。パンフレットはこちら [here](#) からダウンロードできます。

イギリスの平和主義者ヴェラ・ブリテンが ドイツの都市の街路名で記念される

ヴェラ・ブリテン (1893–1970) は第一次世界大戦で親戚や友人を失い、その経験も影響を受けて平和主義者になった。戦時中の最も有名な自伝の一つである『戦場からのラブレター』(1933)で、ブリテンは、戦争による当時のイギリスにおける若い世代への影響を痛烈に描く。ブリテンは、

イギリスがナチスドイツによる大きな被害を受けたにもかかわらず、第二次世界大戦中でも絶対平和主義的な概念を捨てなかった。ロンドンなどの都市が空襲され、コヴェントリーでは大聖堂も空襲で破壊されたが、ブリテンはイギリスによるドイツの都市への集中爆撃を強く批判した。そのため、英国空軍に爆撃されたベルリンとハンブルグでは、ブリテンの和解への努力や勇敢な態度を讃えるため、河畔のプロムナードがブリテンにちなんで名づけられた。



2月19日に、ベルリンのミッテ区で行われた式典では、シュプレー川沿いのプロムナードの一部は *Vera-Brittain-Ufer* (ヴェラ・ブリテン岸) と名付けられた。ベルリンに先立ってハンブルグでも、2014年6月28日に似たような式典が行われ、ハマールブルク区のプロムナードが同じく名付けられた。ブリテンの娘、イギリスの有力な政治家で元大臣であるシャーリー・ウィリアムズ男爵夫人は両方とも式典の主賓となった。

和解や平和のために一生懸命努力した勇敢な女性を記念するこのイニシアチブは、「カントとケーニヒスベルク友の会」の会長であるゲルフライド・ホルストの発想であった。中世からプロイセンの大学都市であったケーニヒスベルク市はイマ

ニュエル・カントが生まれ、生涯を過ごした地であるが、ここも空襲による大きな被害を受けた。平和主義に関わる文献の中の最も重要な文章の一つである『永遠平和のために』(1795)が書かれたところでもある。「カントとケーニヒスベルク友の会」の目標の一つは、現在カーニングラード市と呼ばれるケーニヒスベルク市を「永遠平和のための都市」として指定することである。詳しい情報は[こちら](#)をご覧ください。



シャーリー・ウィリアムズ男爵夫人をベルリンで撮影

ベルリンのブランデンブルク門 ミニ平和ミュージアム

ベルリンの象徴であるブランデンブルク門には、人々が宗教・政治・思想的相違点を脇に置いて静かに会うことが出来る「沈黙の部屋」という小さな場所がある。この部屋の無宗派・無党派的性格は、単純であたりさわりのない装飾に反映されている。唯ひとつの飾りは、闇を照らす光を象徴する織物の壁掛けである。いろいろな言語で「平和」

という言葉が書かれているポスターと「寛容」をテーマにするコラージュには、平和への願いが込められている。

この部屋は、非常にスピリチュアルであったダグ・ハマーショルド元国連事務総長に依頼され、1957年にニューヨークの国連本部ビルで作られた部屋(現在も使用されている)をモデルにする。ベルリンの中心地に「沈黙の部屋」をつくる発想は、ベルリンがまだ分断されていた1988年に東ベルリンから生まれた。ドイツ再統一後の1994年に、ベルリンの上院の協力で実現された。



ブランデンブルク門

ブランデンブルク門は18世紀にプロイセン王ヴィルヘルムII世に「平和の門」として依頼されたので、このミニ平和ミュージアムの位置は適切である。これは門の上部にある、ギリシア神話で平和の女神であるエイレーネーの勝利と、刀を鞘に収めている戦の神であるマルスのレリーフに描かれている。しかしながら、冷戦中ベルリンの壁が門とつなげて作られた1961年以降、平和のメッセージは徐々に忘れられた。世界平和を脅かした対立している軍隊とイデオロギーの境界にあったブランデンブルク門は、分断されている都市と世界の悲劇の象徴となった。「沈黙の部屋」は門の原義を訪れる者たちに思い出させ、黙想や希望の場を与える。詳しい情報は[こちら](#)をご覧ください。

ヴェルダンの闘い（フランス）

100周年記

第二次世界大戦の恐怖と悲劇の代表が広島なら、第一次世界大戦のそれはヴェルダンであろう。広島では一瞬にして何万もの市民の命が奪われ、その後も多くの被爆者が放射能病で苦しみ、犠牲になったが、フランス北東部で1916年の2月から12月まで約300日続いたヴェルダンの闘いは、第一次大戦で最も長い戦闘であり、戦争史上でも最長で最多の犠牲者を出した戦いの一つだった。80万人の仏、独兵が戦死、負傷し行方不明となり、仏兵163,000人、独兵143,000人が亡くなった。今日、130,000余人の行方不明者の遺骨が眠る古戦場は広大な墓地となっており、無数の不発弾が廃棄されたその広域危険地帯は、今も居住や農耕が禁じられている。収集された遺骨はドゥオモン納骨堂に収められている。



Ossuary at Douaumont ドゥオモン納骨堂

広島同様、ヴェルダンは平和都市となり、仏独の和解、欧州統合のシンボルとなった。1984年に独首相として初めてヴェルダンの記念式典に招かれたヘルムート・コール元首相が当時のフランシス・ミッテラン仏大統領と握手を交わしヴェルダンを平和と和解のシンボルへと昇華させたのがこのドゥオモンだった。ヴェルダンの闘い100周年

記念祭は5月29日（オバマ米大統領の広島訪問の2日後）に行われ、フランシス・オランダ仏大統領、アンゲラ・メルケル独首相がおなじ握手を交わし、欧州の結束をアピールした。闘いの生存者はもはやいないが、式典では、参加したおよそ4000人の仏独の若い世代に戦争の恐怖とその傷跡について伝えることに主眼が置かれた。

オランダ大統領はヴェルダンを「平和の首都」と褒めたたえ、「ヨーロッパが敗北した最悪の地であると同時に、平和へむけて行動し統合と仏独の友好を勝ち得た最善の地である」と述べた。式典の様子は [here](#) こちらから。



World Centre for Peace, Liberty & Human Rights

平和、自由、人権世界センター

周辺の数ある博物館の中で、かつてヴェルダンエписコパル宮殿であった印象的な建物の中に平和、自由、人権世界センターがある。1994年に開館したこのセンターは、常設、特設展示をしており「戦争から平和へ」と題した常設展では、欧州の平和と協働の牽引者である仏独の統合に関する展示が完全に改訂されている。詳しくはこちら [here](#)。

2016年 平和のためのグローバルアートプロジェクト (GAP)

4月23日から30日の一週間、「平和のためのグローバルアートプロジェクト」交流会が行われ、大成功に終わった。世界中から約15000人ものアーティストが集い、世界平和を表現したアートを持ち寄った。各作品は、4月初めからの3週間に各地で展示・発表された。その後の4月の最終週には、参加者同士の（グループ同士あるいは個人同士）国際交流が行われ、世界規模のアート交流に至った。アート作品は、国際フレンドシップのプレゼントとして送られ、そこで展示されている。何千人もの子供達を含む数百の学校が参加し、その他にもアート協議会やアーティストのグループ、音楽・ダンスのグループや地域団体、教会、図書館、青少年・婦人クラブなどがあつた。2016年の平和のためのグローバルアートプロジェクトの準備には約200人の現地コーディネーターが尽力した。

その一例として、内モンゴを含む中国の24校が参加した交流プロジェクトがあつた。現地コーディネーターらが、それぞれの学校でGAPのアートや平和の活動が行えるよう、200人の教師と生徒を対象にした2日間にわたるGAPワークショップと講習会を北京で開催した。



参加者らはワークショップを終え、GAPの修了書を授与された。中国で制作されたアート、受け取ったアートのGAP展覧会は深圳にて行われた。北京師範大学の芸術デザイン学部長ツェン・ウェイ教授は、中国での現地コーディネーターの一人だが、彼自身の学部だけでなく教育学部の交流会参加の調整を行った。



設立ディレクター及びINMP役員であるキャサリン・ジョステンによれば、「グローバルアートプロジェクトの目的は、芸術を通して平和の文化を楽しく築きあげることです。このプロジェクトは20年以上の間『平和は暴力で実現することはできない、理解を通してのみ実現できる』という信念に捧げてきています。このプロジェクトは平和が可能であるという希望の案内役なのです」隔年開催されるGAPには、これまで全大陸の89か国から145000人を繋げてきた。キャサリンの7分間に及ぶ示唆に富み刺激的なインタビューなど、詳しい情報はwww.globalartproject.orgにて。世界中でのGAP2016のたくさんの写真はGAPのフェイスブックでご覧になれます。

www.facebook.com/GlobalArtProject/



ピースイメージ・オブ・ザ・イヤー賞

アルフレッド・フリード写真賞では、「平和とはどんなもの？」という質問に視覚で答えるため、写真と平和に情熱を持った方を募集中。これは、平和をどのように考えているのかを表現した写真、また平和の力強い声を自分の創造性と撮影技術を駆使して撮影した写真を募集する唯一の賞だ。毎年ウィーンのオーストリア国会議事堂にて行われる授賞式では5人の受賞者が選ばれ、「ピースイメージ・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた者には10000ユーロの現金が授与される。その写真は、毎年、国際平和の日である9月21日に発表。オーストリア国会議事堂に一年間展示され、そのアートコレクションの一部となる。



「見て、私きれいでしょ」

パトリシア・ウィロック、ベルギー

写真の美しさで平和の探求を奨励するため、毎年、各地で受賞作とその他約300点の写真の展覧会が行われる。また、ウィーンの数か所の広告版には「平和とはどんなもの？」というスローガンを付けて受賞作が展示される。

この無料のコンテストは、プロアマを問わず誰でも参加できる。ユネスコ、オーストリア議会、オーストリア議会報告会、国際新聞編集者協会の協賛で、Photographische Gesellschaft と Edition Lammerhuber によって開催される。この賞は、ベ

ルタ・フォン・ズットナーと近しい協力者であったオーストリアのジャーナリストであり平和活動家であったアルフレッド・ハーマン・フリード

(1864-1921) の名に因んでいる。平和ジャーナリストの先駆者として、彼は1911年にノーベル平和賞を受賞している。2015年の募集では14000点以上が集まり、5000名以上の写真家が121か国から寄せられた。詳しい情報は[こちらをクリック](#)。

平和の家 La Filandaにて平和ポスター 展示ワークショップ

2月15-26日、平和の家「ラ・フィランダ」では、「移民についてのポスター展示準備」というテーマで中高生対象のワークショップを開いた。16-17歳の文系の生徒達は、カザレッキオ・ディ・レーノのレオナルド・ダ・ヴィンチ校からやってきた。



ラ・フィランダでのワークショップ

2007年には、「平和と人種差別撤廃の教育」をテーマにしたポスター展示を準備するために同校の1クラスが同様のワークショップに参加している。30枚のポスターは、高校生が中学生を指導しながら中学校に展示された。移民展覧会の準備はそれとは異なり、2グループに分かれた5人の生徒達が参加し、国際平和主義ポスタードキュメンター

ションセンター (CDMPI) のボランティア 4 人が交代で生徒たちを指導、援助した。各グループは提示された 40 枚のうち 15 枚のポスターを選ぶよう指示された。



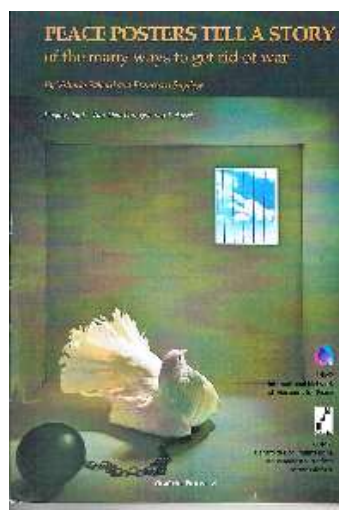
ラ・フィランダでのワークショップ

このように、80 枚のうち合計 30 枚が展覧会のために選ばれたが、これらを選択する前に、CDMPI ボランティアらによって以下のような説明があった。CDMPI とそのポスターコレクションについて、各ポスターの技術的特徴（見た目、伝わり方）と内容（社会性、政治性、文化性）の分析方法について、ポスターのデジタル化とスキャン技術について、各ポスターの簡潔な説明の編集方法について。

近い将来、ダ・ヴィンチ高校で展覧会が行われ、彼らが訪問者を案内することになる。このポスター実習と同時に、フェアトレード経済と小規模の共有市場についてさらに 2 つのワークショップがラ・フィランダにて行われた。こうしたイベントは、ポスターコレクションや書類保管とともに、平和の家ラ・フィランダの活動の一部である。

平和ポスターは語る

前号のニューズレターで報告した通り、INMP メンバーであるヴィットリオ・パロッティとフランチェスコ・プリエーゼによる素晴らしく独創的な平和ポスターの本がイタリア語で出版されました。テーマにふさわしく、フルカラーで豪華に図解されています。同じく図解された英語版「平和ポスターは語る—戦争を無くす多数の方法 *Peace Posters Tell A Story ... of the many ways to get rid of war*」が最近出版されました。オリジナル版と同じく、英語版もイタリアはボローニャ近郊カザレッキオ・ディ・レーノにある平和の家ラ・フィランダを拠点とする国際平和主義ポスタードキュメントセンターから出版されています。この素晴らしい本は 30 ユーロ（送料別）でこちらから注文可です vittoriopallotti@libero.it。



「ポスターは語る」の表紙

INMP 役員のジョイス・アプセルは、彼女の最近の著書「平和ミュージアムの紹介」（前号参照）の中で、ラ・フィランダについて章の半分を割き、そのポスターコレクションが「平和プロジェクトのきっかけ」としていかに想像力に富んだ使われ

方をしているかを語っています。また、「ポスターは語る」にも序文だけでなくいくつかの小論を提供しています。この本には、著者以外に他の寄稿者らによる独創的で大変興味深い文章が数多く収められています。

出版物『平和博物館の紹介』

平和博物館に関する単著はまれである。従ってジョイス・アプセル(Joyce Apasel)著『平和博物館の紹介』という本の出版は、喜ばしいことである。この本は「ルートリッジ(Routledge)博物館研究」シリーズの一冊であり、最初の平和博物館に関する総合的学術的研究書である。平和博物館による平和の文化の促進に関わっている学者、活動家、芸術家、教育者、学芸員、その他の博物館の専門家の国際的集団は広がりつつあるが、彼らにとって大変興味深い本となるであろう。著者は、次のように述べている。「この本は、平和博物館の批判的研究を奨励し、平和博物館の内容と目的という問題を分析することを目的としている。平和博物館の顕著な特徴は何であろうか。それらは、記念館や残虐行為のあった場所、そして平和のための博物館というより広い範疇のものとのように異なるのであろうか？」彼女は、平和博物館の特徴は、「その内容や活動が平和の文化を促進する歴史や考えを展示しており、平和の文化に関する理解を促進するセンターであり、平和の文化に関する教育を提供していることである」と論じている。

この本では平和博物館の紹介と結論の部分以外に4つの章があり、各章ではブラッドフォードの平和博物館(英国)、京都の国際平和ミュージアム、ゲルニカ平和博物館(スペイン)、デイトン平和博物館(米国)について事例研究がなされて

いる。さらに第5章ではオスロのノーベル平和センター(ノルウェー)、平和の家(Peace House La Filanda)(イタリアのボローニャ付近)が取り上げられている。アプセル氏は彼女の著書を「平和博物館見本集」と適切に述べている。彼女は平和博物館に関してすでに出版されている多くの文献に目を通してだけでなく、この本で選ばれた平和博物館の訪問をして研究を行っている。彼女は平和博物館の創設者、館長、職員、ボランティアのメンバーや訪問者と話す機会を持った。ハードカバーの本の魅力的な特徴はイラストであり、特に16枚のカラー写真である。多分このような理由でこの本は90ポンドという高価な本となったのであろう。



ジョイス・アプセル氏は、ニューヨーク大学国際・自由研究修士課程で人文科学を担当している。彼女は以前アメリカのアンネ・フランクセンターで教育指導者をしてきた。彼女はまた長い間 INMP 理事をしており、ニューヨークにある国連 NGO 広報課に INMP 代表として関わってきた。INMP は彼女の国連との連携の更新への努力とこの先駆的な著書の出版に感謝している。

平和博物館による平和教育

英国で出版されている『平和教育ジャーナル』誌は、国際平和研究学会平和教育委員会が後援している優れた専門誌であるが、2015年12月号には「平和博物館による平和教育」という特集が組まれている。そこには次のような論文が含まれている。ロイ・タマシロとエレン・フナリによる「平和のための博物館：平和教育の推進者・手段」、渡辺美奈の「従軍慰安婦の歴史を継承する：日本における女性の博物館の経験」、谷川佳子の「平和博物館におけるガイドを通じた平和教育の推進：立命館大学国際平和ミュージアムの事例研究」、エリザベス・ルイスとシャハリア・カテリの「化学兵器戦争の雲から平和の青空へ：イランのテヘラン平和博物館」、そしてティモシー・ガチャンガとムヌヴェ・ムチスヤによる「ケニアにおける平和博物館での異宗派の対話」である。



それらの論文の前には、ゲストの編集者であるピーター・ヴァン・デン・デュンゲンと山根和代による論文の紹介がある。

この専門誌は英国の Routledge/Taylor & Francis Group によって出版されている。この特

集（12巻3号）の詳細は、ウェブサイトをご覧ください。最初のページに要旨が書かれています。[here](#)

女性平和ネットワーク、ボン

11月にボンの女性平和ネットワーク（Frauen Network fuer Frieden, FNF）は、Else Mayer 財団の Elsa Mayer 賞の今年度の受賞者の一つとなった。Else Mayer 賞はドイツにおける女性解放運動の先駆者のひとりである Else Mayer の名前にちなんだものであり、模範的な社会活動をした特筆すべき女性に与えられる賞である。FNF は過去およそ 20 年間の社会的な取り組みが認められた。FNF を代表し創設者で代表の、また INMP のメンバーでもある Heide Schuetz が受賞した。この財団は以前（2013年）市の中心部にあるベルタ・フォン・ズットナーの名前にちなんだ広場に彼女の銅像を設置するために財政支援をした。



Heide Schuetz（中央）と他の2015年度Else Mayer賞受賞者

20周年記念としてFNFは9月24日にボンで行われる「ジェンダー、女性、平和」についてのシンポジウムを準備している。このイベントは国際ピースデイ（9/21）にちなんだボンピースデイの一環となる予定である。ドイツにおける女性の平和運動に関する三年計画の一部として「ドイツ平

和運動アーカイブ」財団 (the Foundation ‘Archives of the German Peace Movement’) からの申し入れに従って、FNF のアーカイブの目録が目下専門的に作られているのは偶然のことである。FNF の 2015 年度下半期の様々な活動や、さらなる情報を知りたい人は 12 月のニュースレターのここ [here](#) をご覧ください。

テヘラン平和博物館

2015 年 11 月 30 日から 12 月 4 日まで、化学兵器禁止条約 (CWC) の第 20 回締約国会議がオランダのハーグにおいて開催された。テヘラン平和博物館 (TPM) と化学兵器被害者支援協会 (SCWVS) から 2 名の代表が参加、いくつかの全体会議、化学兵器禁止条約連合の会合、サイドイベントにも参加した。

会期中、「平和のメッセンジャー」と題する展覧会もサイドイベントとしておこなわれた。TPM のオーラルヒストリープロジェクトをもとにしたこの展覧会は、化学兵器被害者やその専門家、さらにそれらの人々の平和実現のための努力に関する 10 のストーリーを展示している。

また、この秋には TPM は国際子どもデー (10/8)、国際ガールズ・デー (10/11)、経済・社会開発のための国際ボランティア・デー (12/5) などの国際デーを記念して積極的に活動をした。

詳しくは TPM の [website](#) へ。



テヘランでの「ピース・カウンツ」展

平和と開発のための世界科学デー (11/10) にちなんで TPM によって「Peace Counts (ピース・カウンツ)」のワークショップがテヘランの Shahid Rajaei 大学において 11 月 8 日に行われた。またテヘランの Allameh Tabatabai 大学の法政治学部の教職員が 12 月 13 日から 20 日に「ピース・カウンツ」展を主催した。

「ピース・カウンツ」展は 25 枚のポスターからなり、世界中の平和に貢献したさまざまな人々を紹介している。この展覧会はドイツの Berghof 財団の国際的な「ピース・カウンツ巡回展」プロジェクトの一環であり多くの国々で展示されている。



「平和博物館研究会」の紹介

福島在行

平和博物館／平和のための博物館に関連する日本での活動紹介として、「平和博物館研究会」を紹介させていただきます。

平和博物館研究会は 2007 年に結成されました。当時、平和博物館に関連する事柄について研究的視点から議論する場がほとんどなかったため、関西に暮らしていた数人の若手研究者の手により始められました。当初は、読書会やフィールドワーク、あるいは修士論文を作成中の大学院生の発表が中心でした。

2008 年 10 月に京都と広島で第 6 回国際平和博物館会議が開催され、研究会のメンバーもその準備に携わりました。第 6 回会議で研究会のメンバーは幾人もの若手研究者と出会い、彼らが新たに研究会に参加しました。このころから研究会のメンバー数が徐々に増えていきました。2007 年 3 月

12日に京都で第1回の研究会を開催して以降、2015年末までに29回、開催しています。当初は京都や大阪での開催が主でしたが、2011年以降は、中心メンバーの一人が広島に転居したこともあり、広島での開催も増えています。研究会は当初から現在まで規約を持たず、会費も徴収していません。そのため正確な参加者数は不明ですが、連絡用に開設しているメーリングリストの登録者は約40人です。それぞれの研究会には数人から十数人が参加しています。ホームページは開設していません。

研究会に参加している人たちの研究分野は、歴史学、博物館学、教育学、メディア論、平和学、人類学、憲法学、地域研究等であり、大学の研究者や大学院生の他、平和博物館の学芸員も参加しています。平和博物館は多様なテーマを有しており、さまざまな分野の研究者が討論することでその研究は発展していきます。そのためには、平和博物館研究会のように、さまざまな分野の研究者が、実践的な問題意識を持ちながら、議論を重ねることが重要になってくるでしょう。

平和博物館は多様なテーマを有しており、さまざまな分野の研究者が討論することでその研究は発展していきます。そのためには、平和博物館研究会のように、さまざまな分野の研究者が、実践的な問題意識を持ちながら、議論を重ねることが重要になってくるでしょう。近年の研究会の開催回数は、年に2回程度と、必ずしも頻繁に開催できていませんが、これからも継続して開催していく予定です。



広島平和記念資料館

中帰連平和記念館：埼玉

「中帰連」は正式には「中国帰還者連絡会」という。戦後シベリアに抑留された約60万人の中から約1000人が敗戦5年後の50年に旧ソ連から新中国に「戦犯」として引き渡され「撫順戦犯管理所」等に収容された人たちです。過去に多くの加害・虐殺をし処刑を覚悟していた彼らは、管理所で「人道的扱い」を受け「鬼から人間に戻してくれた」と感謝した。56年の「特別軍事法廷」では一人の死刑も無期もなかった。周恩来が『制裁や復讐では憎しみの連鎖は切れない』と判決原案を3回も書き直させた結果だった。



起訴された1062人のうち有期刑は僅か45人で他全員「起訴免除」とされた。その45人もシベリアの5年と管理所の6年計の計11年が刑期に参入された。命を救われた彼らは帰国翌年の57年に「中帰連」を立ち上げ、高齢のため解散した02年まで自らの加害や虐殺を証言し反戦平和を訴えた。私たちはその思いを引継ぎ資料収集と提供を行っている。

【NPO・中帰連平和記念館】

〒350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6

TEL&FAX : 049-236-4711 HP

<http://npo-chuukiren.jimdo.com/>

E-mail : npo-kinenkan@nifty.com ML :

npo-kinenkan@freeml.com

郵便振込 : (00150-6-315918)

口座名義 : 「中帰連平和記念館」 年会員 : 5000

円 (カンパ・支援歓迎)

【開館日】 (水、土、日) 10:30~16:30 【会員・ML参加者】 募集中



殉難した抗日烈士への謝罪碑

「鷹来工廠と学生たち：名城大学農学部に残る戦争遺構」

渋井康弘 (名城大学経済学部)

名城大学農学部の農場は 1941 年開設の陸軍工廠 (名古屋陸軍造兵廠鷹来製造所) 跡地にあり、当時の司令棟は今も農場本館として利用されている。工廠では薬莖、弾丸、風船爆弾等が製造され、1945 年 8 月時点で約 4,150 名が働いていた。うち約 1,000 名は各地からの動員学徒で、他に金沢や浜松からの女子挺身隊もいた。当地には 1945 年 8 月 14 日にパンプキン爆弾 (長崎型原爆と同じ大きさ・形・重さの模擬原爆) も投下されている。

動員学徒が働き、模擬原爆も投下されたこの場所が、今日では若者の学び舎となっている。ここを訪れた人たちは、学びが平和の中でこそ約束されること、愛知が長崎とも広島とも繋がっている

こと、モノづくり愛知が兵器づくり愛知 (軍事工場の一大拠点) となっていたことが激しい愛知空襲の大きな原因であったこと、その空襲を生きのびた人々が兵器づくりを民生用のモノづくりに変えて来たことが、戦後、愛知経済復活の 1 つの軸となったこと——こうしたことを実感できるはずである。報告者はこの戦争遺構を保存し、平和ミュージアムとして利用することを訴え、同僚や卒業生たちと保存運動を展開している。



農場本館の壊れた時計と窓の下に、陸軍の星印が見えます。

編集ノート

編集委員メンバーは安齋育郎、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、ロバート・コワルチェック、山根和代です。翻訳は山根のほか、谷川佳子さん、幾波素代さん、竹田敦子さん、寺沢京子さん、メリード・ハインズさんが担当しました。INMP の会員そしてニューズレターの読者のみなさん、随時ニュースなどの投稿をお願いします。原稿は随時、英語で 500 単語以内、写真は 1-3 枚。あなたの名前と所属を書いて、news@inmp.net に送付してください。英語で書くことに困難がある場合には、INMP 日本事務局にご相談下さい。

ひきつづきお願いします

平和のための博物館
国際ネットワーク
(International Network of
Museums for Peace, INMP)

を支え、さらに発展させるために、
新たな会員を迎え入れることが期
待されています。現在の年会費は
2000円、日本での会員事務は、下
記の「安齋科学・平和事務所」が代
行しています。

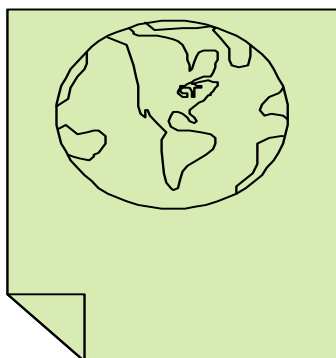
INMP 日本事務局:

安齋科学・平和事務所 (ASAP)

※事務局は、月・水・金の午
後13時～17時30分オープ
ンしています。

電話：075-741-7267

FAX:075-741-7282



第9回国際平和博物館会議

2017年4月10日～13日
ベルファスト(北アイルランド)



第9回国際平和博物館会議が、来年
(2017年)4月にイギリス・北アイルラ
ンド地方の首都ベルファスト市で開催
されます。北アイルランド紛争の名残の
ある「和解と平和の街」です。

メインテーマは「平和のための“生き
た”博物館としての都市」です。発表の
要旨の締め切りは2016年11月1日で、
日本からも参加しやすいように、第8回
会議(ノグンリ・韓国)の場合と同様、
通訳・翻訳体制などを工夫したいと思
います。

参加意欲をお持ちの方はINMP日本事
務局にお問い合わせください。

なおベルファストにおけるINMP国際会
議の前にイギリスのブラッドフォード
の平和博物館やブラッドフォードにお
けるPeace Trail(平和に関連した場所)
での散策、ブラッドフォード大学のピー
スコレクションの見学などを国際会議
前に計画中です。また国際会議後、ベル
ファストでの小旅行も検討中です。詳細
が決まり次第、登録費、ホテルも含めて
お知らせします。